

都市再生整備計画(第6回変更)

つるみえきしゅうへん
鶴見駅周辺地区

かながわ よこはまし
神奈川県 横浜市

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	鶴見駅周辺地区	面積	約40 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

鶴見は高度経済成長時代を経て、京浜臨海部に面する市街地として成長・熟成をしてきた。しかし、その頃に整備された市街地は老朽化や機能低下を起こしている。それに加え高齢化も進み、地区の活力は衰退傾向にある。そこで、歩車分離及びバリアフリーの徹底化等、鶴見駅周辺の動線計画再整備を実施し、安全で利用しやすいまちづくりを進めます。また地域の核となる文化施設(公益施設)及び交通拠点の整備等により、地域の活性化を図ることを目標とする。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

まちづくりの経緯: 「鶴見のまちづくり」(横浜市都市計画マスタープラン・鶴見区プラン)を平成14年5月に策定。
 地域の特色: 東京隣接地という立地特性から早くより京浜工業地帯の一画として発展。多くの工場労働者が居住。その後、郊外に東京通勤世帯が数多く居住。
 地域の現況: 区人口25万人。横浜市の副都心としての位置付けられる。JR鶴見駅・京急鶴見駅により中心市街地を形成しているが、一体化はされていない。
 高齢者人口の増加、社会経済構造の変化等による京浜臨海部の空洞化、生活形態の変化に依る駅利用者の駅前商圏の通過等で中心市街地としての賑わいが低下等、地区としての活力の低下が見られる。
 地区内の再開発等について: 鶴見駅西口…鶴見駅西口市街地改造事業を実施。(駅前広場(2,100㎡)、ショッピングモール(延長60m)、ペDESTリアンデッキ(延長12m)、公益施設(公会堂))
 昭和43年10月都市計画決定、昭和45年10月事業計画認可、昭和59年6月管理処分計画、昭和60年9月工事完了公告
 鶴見駅東口…鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業を実施中。(駅前広場(2,100㎡既存駅広幅)、商業・業務施設、住宅(約300戸)、ホテル、公益施設等予定)
 平成12年4月都市基盤整備公団(当時)にて事業採択、平成16年5月都市計画決定。

課題

- ・駅周辺の商業集積の拡散(郊外型大型店の進出、車社会への移行等)による駅前商圏の活力低下
- ・駅施設の老朽化とバリアフリー対策(既存駅ビル、駅広、道路を前提とした各種対応のため、動線等に不便が生じる)→結節点の強化及び一体化(例)東西自由通路の老朽化及び不良施設化(安全性の低下)
- ・魅力ある駅前地区づくり(拠点性強化のため、公共公益施設・商業・業務・文化等の多様な機能や利便性を有した区の顔づくり、駅周辺の核施設(区役所・図書館等の公共公益施設、総持寺等の観光文化施設)への動線の整理と整備)

将来ビジョン(中長期)

- ・「鶴見のまちづくり」(横浜市都市計画マスタープラン・鶴見区プラン)
 地域の特性を活かしたまちづくり…①「丘のまち」: 環境の維持・向上を図り、緑豊かなまちづくりを推進 ②「川のまち」: 災害に強いまちづくり、職・住を始め多様な機能が共存する移動しやすく安心・快適なまちをつくる。
 ③「海のまち」: 既存の生産機能の育成・強化を図り、産業による都市活力を維持するまちづくりを推進。
 ※ 鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業(コア事業)により拠点性の強化を図り、地区全体の活性化を促す。
 ・「横浜市鶴見駅周辺地区交通バリアフリー基本構想」による重点整備地区内のバリアフリー化実施(特定経路、準特定経路の整備)

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
駅利用乗降客数	人/日	地域拠点の整備により、集客率の増加を図る。	再開発による駅前商業施設の再構築及び公益施設の誘致	185,000	H16	293,000	H22
バリアフリーへの満足度	%	居住者・来街者による歩行環境の満足度(満足度アンケートによる)	段差など歩行環境に関する満足度が、従前に比べ倍増することを目指す。	10	H16	20	H22
駅周辺地区への顧客満足度	%	居住者・来街者による地区の機能等の満足度(満足度アンケートによる)	分かりやすいサイン計画、老朽化施設改修、核施設の整備等により、地域の核機能に対する満足度を、従前に比べ倍増することを目指す。	20	H16	40	H22
区内の文化活動団体の増加	団体	核施設の整備により文化活動を行う機会が拡大	核施設(公益施設)の整備	237	H16	250	H22
駅周辺地区での文化イベントの実施	人	鶴見区民文化祭等の実施により、文化活動機会が拡大する	核施設(公益施設)の整備	—	H16	4,000	H22

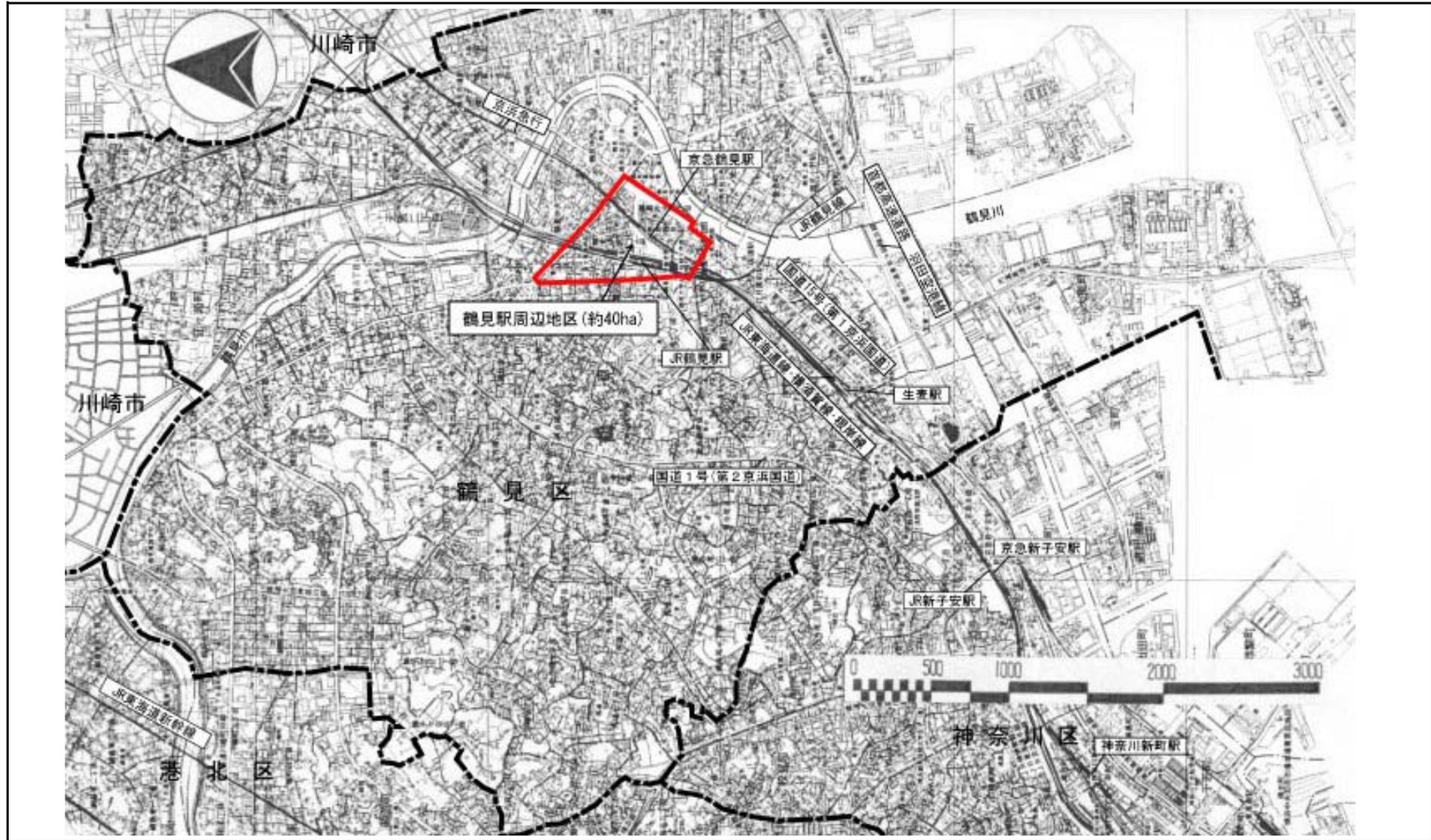
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・駅前再整備に伴う増加交通整理の必要性及び利用しやすい歩行者動線の再整備と計画(安全性・快適性の向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見駅東口駅前広場の整備 ・市道鶴見113号線の拡幅整備(歩道の設置等) ・鶴見駅人道橋の改修
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺区域の活性化の核となる施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・公益施設の整備(区民文化センター等の内装等整備)
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺区域の歩行者動線の再整備(周辺の主要施設への動線計画・整備) ※ 歩行者の安全確保(歩車分離等)、バリアフリー化の徹底、分かりやすい施設への誘導(サイン計画等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総持寺跨線橋へのエレベーター設置 ・駅前及び区域内重要路線の各拠点(交差点等人だまり箇所)へのサイン等の設置(東口駅前広場再整備) ・鶴見駅西口及び豊岡通りの現況調査 ・鶴見駅西口バスターミナルEV設置
<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺区域の各種事業有効性の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見駅周辺地区における顧客満足度調査

その他

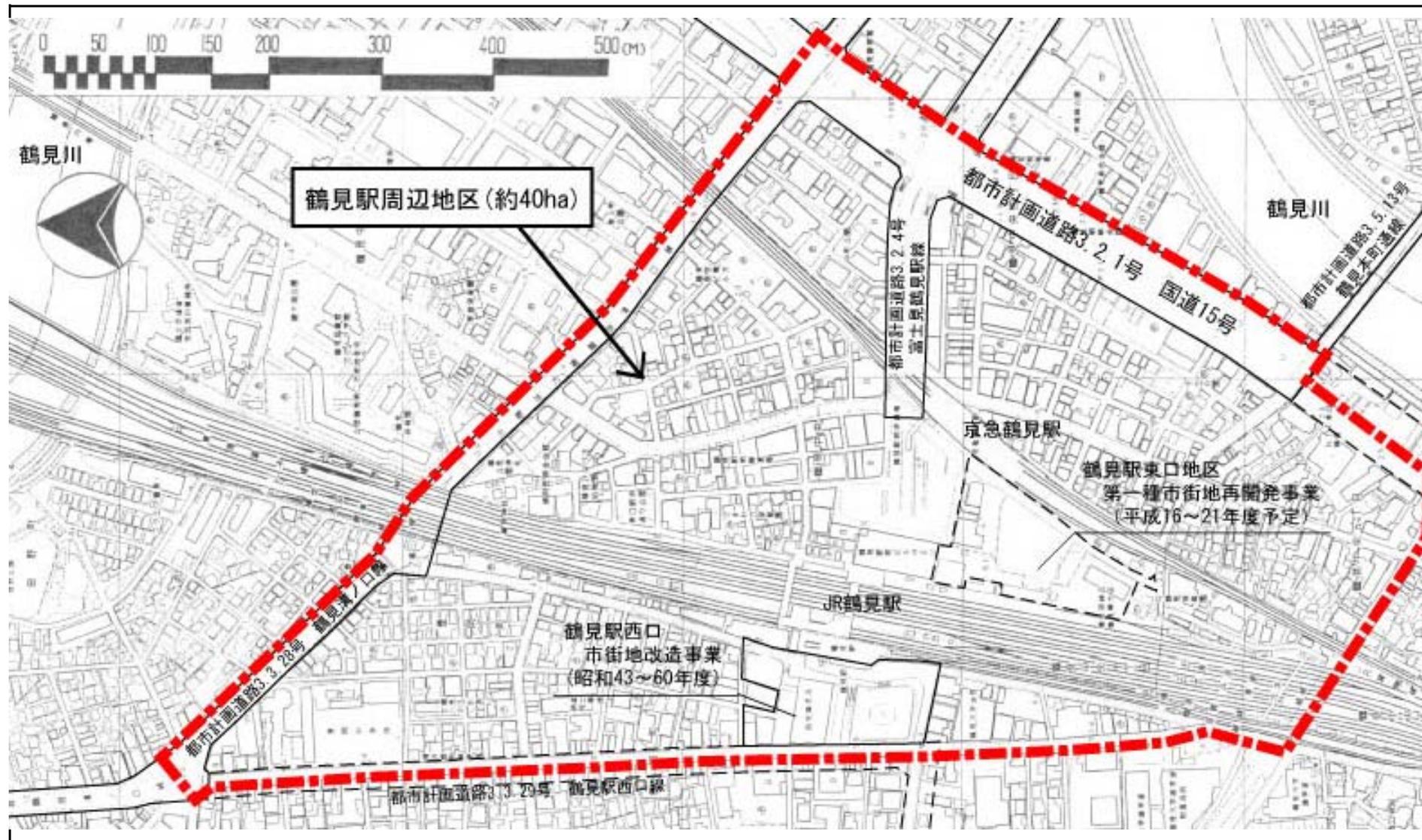
都市再生整備計画の区域

鶴見駅周辺地区(神奈川県横浜市)	面積	約 40 ha	区域	鶴見中央一～四丁目、豊岡町
------------------	----	---------	----	---------------



都市再生整備計画の区域

鶴見駅周辺地区(神奈川県横浜市)	面積	約 40 ha	区域	鶴見中央一～四丁目、豊岡町
------------------	----	---------	----	---------------



鶴見駅周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	鶴見駅東口地区第一種市街地再開発事業と併せ、駅周辺地区のバリアフリー化を図る。また公益施設の整備を行い、地域拠点としての活性化を図る。	代表的な指標	・駅利用乗降客数 (人/日)	185,000 (16年度)	→	293,000 (22年度)
			・バリアフリーへの関心度 (%)	10 (16年度)	→	20 (22年度)
			・顧客満足度 (%)	20 (16年度)	→	40 (22年度)

